




研究者名※	砂田 大樹 SUNADA Hiroki	学位※	修士(教育学)
所属※	人間社会学部 教育学科	職名※	助教
連絡先	sunadah@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/h-sunada		
研究分野※	社会科学, 教育学, 教科教育学		
研究キーワード※	各教科の教育(算数・数学)		
共同研究・競争的資金等の研究課題	戦間期の「生活算術」における知と権力の連関に関する研究(科学研究費・基盤C・研究分担者, 2023~2026年)		
社会貢献・産学官連携活動等			
受賞歴	日本数学教育学会学会賞(大学院生研究奨励部門)(2019年)		

研究領域	教科教育学 算数・数学教育	(SDGs)	
研究テーマ※	戦時期算数・数学教育の変化と特徴		
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 戦前の算数教育では、黒表紙教科書から昭和10年からの緑表紙教科書の編纂、そして昭和16年からの水色表紙教科書の編纂と、教科書の内容に大きな転換がはかられた。同様に、数学教育においては、数学教育再構成研究会が発足し、数学科の教育内容に画期的な近代化がもたらされ、昭和17年の教授要目の改正、昭和18, 19年の一種検定教科書の編纂へと繋がった。これらの戦時期算数・数学教育の改革の変化と特徴を明らかにすることを研究の目的としている。本研究では、編纂された算数・数学教科書や教師用指導書、関係者の史料をもとに、戦時期算数・数学について分析している。</p> <p>【応用例、研究の展望】 戦時期の算数・数学科に新たに加えられた内容の1つに、用器画に関する内容がある。これは今日では見取り図や投影図といった内容であり、算数・数学科における空間図形の内容の1つである。このような教科固有の内容について、当時の教材の分析や、実際の授業に関する史料から、今日の算数・数学科の内容への新たな示唆を得ることができると考えられる。また、このような内容を取り入れた経緯について、数学的見方・考え方や数学的活動といった今日大事にされている算数数学教育の視点から、戦時期算数・数学の新たな評価につながると考えられる。</p> <p>【研究方法の特色】 ・戦前の小学校算数, 中学校数学の教科書や当時の雑誌, 文献等の史料を幅広く収集し分析している。</p>		
本研究関連特許・論文等	・砂田大樹「数学教育再構成運動における東部地区の役割と『数学 第一類・第二類』の編纂過程」日本数学教育学会第51回秋期研究大会発表集録, pp.129-136, 2018年		
共同研究・外部機関との連携への期待			